

ワクチンスケジュール 0～7歳

2025/08/20更新

予防接種法に基づく定期の予防接種は、次ページ以降の図に示すように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として受けることになります。
ただしワクチン毎に定められた接種年齢がありますので注意してください。
なお、図中の★は、一例を示したものです。接種スケジュールの立て方についてはお子さまの体調・生活環境、基礎疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよくご相談ください。

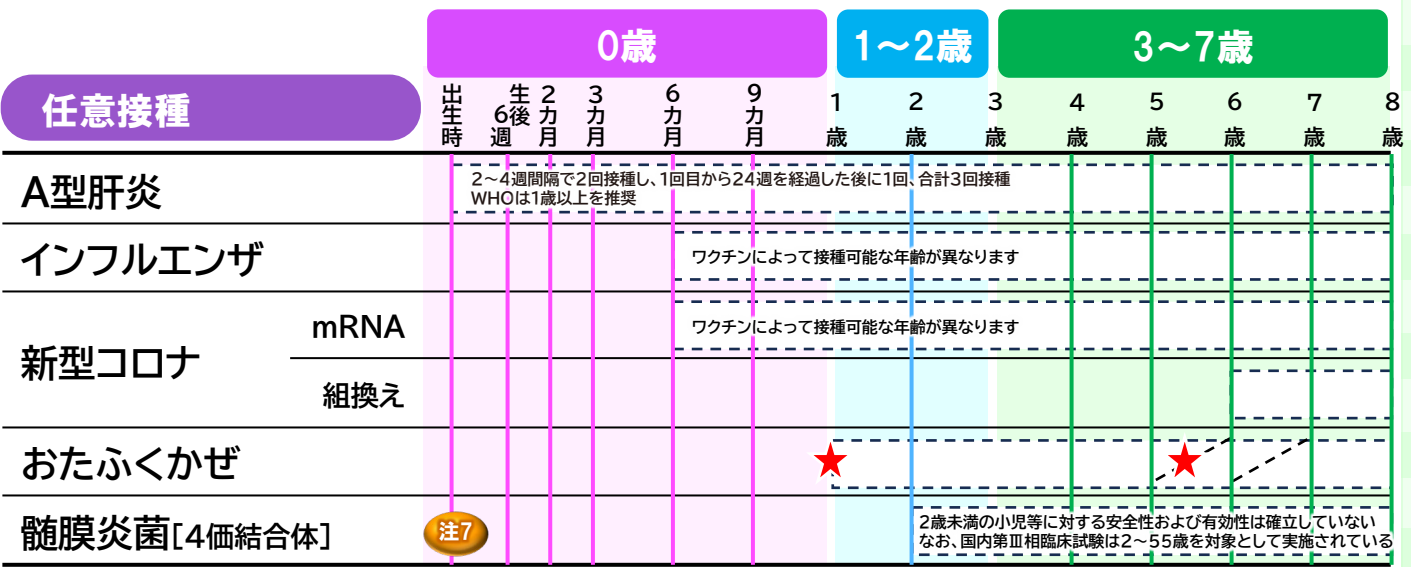
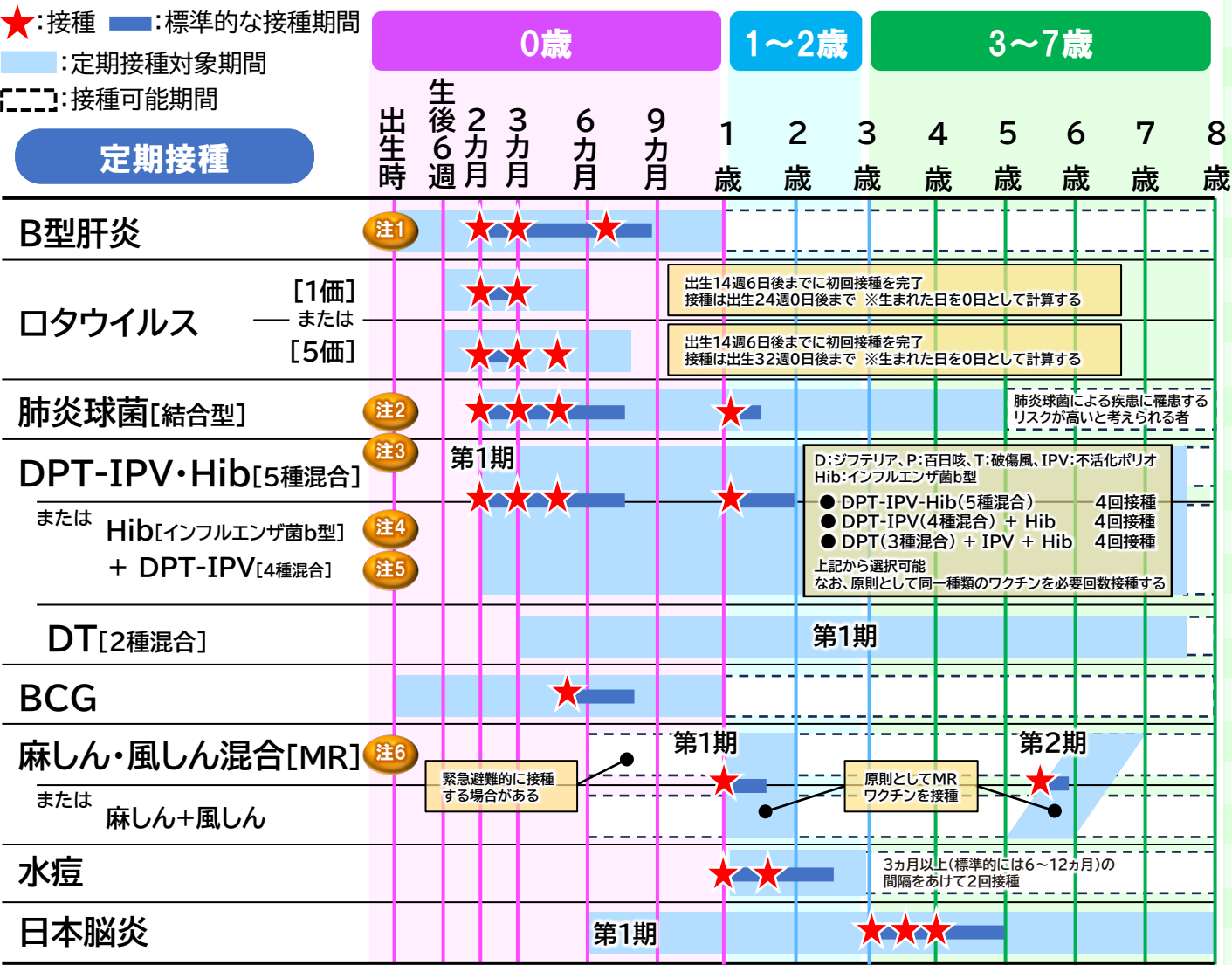
指導・監修

川崎市 健康安全研究所
参与 岡部 信彦 先生

福岡市 社会福祉事業団
宮崎 千明 先生

神奈川県 衛生研究所
所長 多屋 馨子 先生

★:接種 ■:標準的な接種期間
■:定期接種対象期間
---:接種可能期間



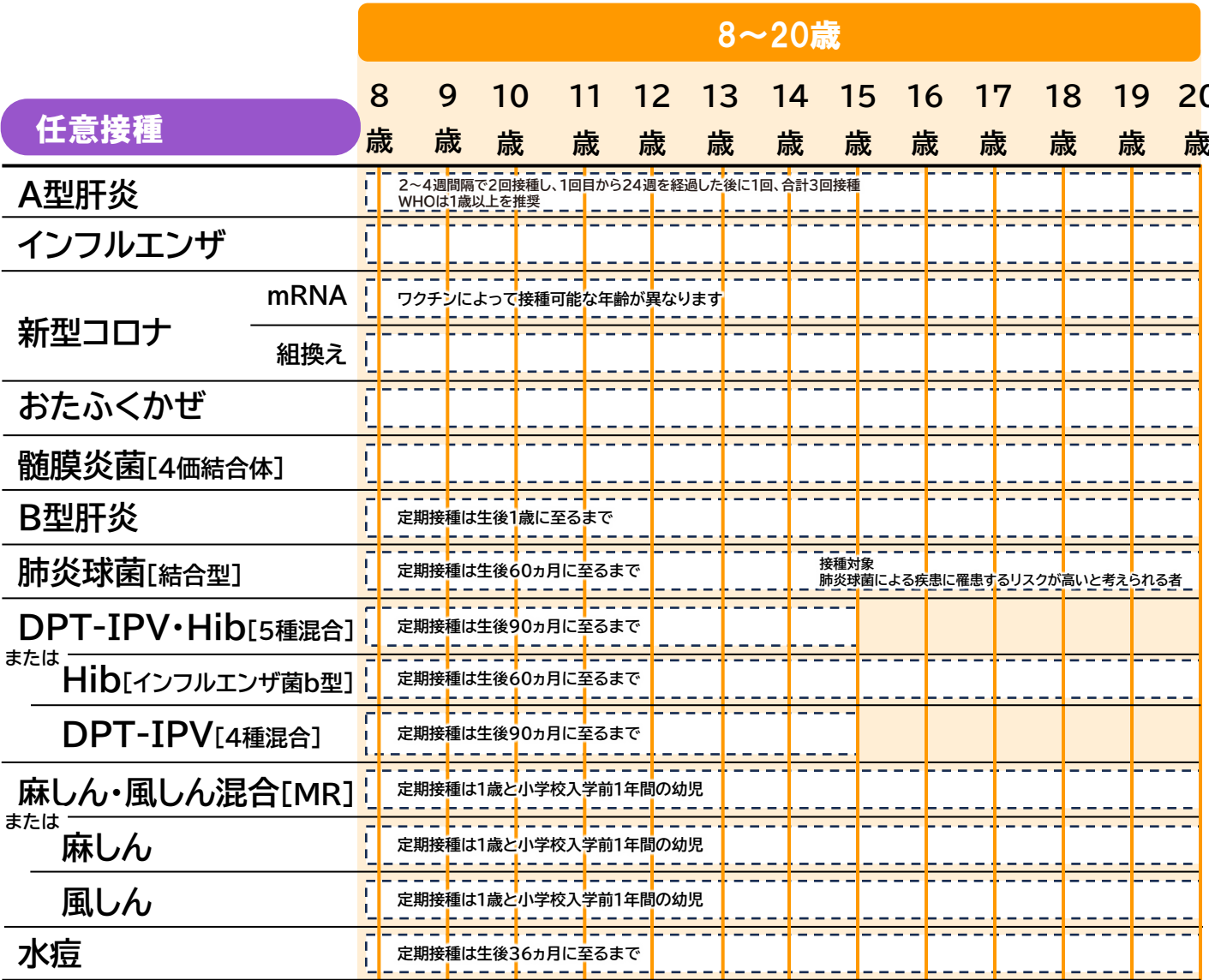
上記のほかに、以下のワクチンは8歳未満の方にも任意接種が可能です。詳細は国立感染症研究所・日本の予防接種スケジュールでご確認ください。
肺炎球菌(23価)、破傷風トキソイド、黄熱、狂犬病

ワクチンスケジュール 8～20歳

2025/08/20更新

予防接種法に基づく定期の予防接種は、次ページ以降の図に示すように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として受けることになります。
ただしワクチン毎に定められた接種年齢がありますので注意してください。
なお、図中の★は、一例を示したものです。接種スケジュールの立て方についてはお子さまの体調・生活環境、基礎疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよくご相談ください。

★:接種 ■:標準的な接種期間
■:定期接種対象期間
---:接種可能期間



上記のほかに、以下のワクチンは8～20歳の方にも任意接種が可能です。詳細は国立感染症研究所・日本の予防接種スケジュールでご確認ください。
DPT(3種混合)、IPV(不活化ポリオ)、BCG、肺炎球菌(23価)、破傷風トキソイド、黄熱、狂犬病、帯状疱疹(18歳以上で帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる者)

注1: B型肝炎ワクチンに関して) 母子感染予防はHBグロブリンと併用して定期接種ではなく健康保険で受ける。

- 健康保険適用: ①B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)【HBワクチン】通常、0.25mLを1回、生後12時間以内を目安に皮下接種(被接種者の状況に応じて生後12時間以降とすることも可能。その場合であっても生後できるだけ早期に行う)。更に0.25mLずつを初回接種の1ヵ月後及び6ヵ月後の2回、皮下接種。ただし、能動的HBs抗体が獲得されていない場合には追加接種。【HBIG(原則としてHBワクチンとの併用)】初回注射は0.5～1.0mLを筋肉内注射。時期は生後5日以内(なお、生後12時間以内が望ましい)。また、追加注射には0.16～0.24mL/kgを投与。②血友病患者に「B型肝炎の予防」の目的で使用した場合。③業務外で「HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)」。
- 労災保険適用: ①業務上、HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液による汚染を受けた場合(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)。②業務上、既存の負傷にHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液が付着し汚染を受けた場合(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)。

注2: 肺炎球菌(結合型)ワクチンに関して) 生後2ヵ月以上7ヵ月未満で開始し、27日以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12～15ヵ月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。接種開始が生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合: 27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳: 60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上5歳未満: 1回接種。

注3: DPT-IPV-Hibに関して) 初回接種については標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始し、20日以上(標準的には20～56日迄)の間隔をおいて3回接種する。初回接種から6ヵ月以上(標準的には6～18ヵ月)の間隔をおいて1歳以上で1回接種する。なお、Hib感染症の定期接種としてDPT-IPV-Hibを使用する場合は、初回接種の月齢に関わらず接種回数を減じる取り扱いは不要。

注4: Hibワクチンに関して) 通常、生後2ヵ月以上5歳未満の間にある者に行うが、標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、生後12ヵ月に至るまでの間に27日以上の間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。接種開始が生後7ヵ月以上12ヵ月未満の場合は、通常、生後12ヵ月に至るまでの間に27日以上の間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。初回接種から7ヵ月以上あけて、1回皮下接種(追加)。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。

注5: DPT-IPV及びIPVに関して) 初回接種については標準として生後2ヵ月以上12ヵ月に至るまでの間に20日以上(標準: 20～56日迄)の間隔をおいて3回接種する。初回接種から6ヵ月以上(標準: 6～12ヵ月)の間隔をおいて1歳以上で1回接種する。なお、生ポリオワクチン(OPV)2回接種者は、ポリオ流行国渡航前を除き、IPVの接種は不要。OPV1回接種者はIPV3回接種。OPV未接種者はIPV4回接種。

注6: 麻しん・風しん混合ワクチンに関して) 同じ期内で麻しんワクチンまたは風しんワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンの選択可能。

注7: 髄膜炎菌ワクチンに関して) 血清型A,C,Y,Wによる侵襲性髄膜炎菌感染症を予防する。

注8: HPVワクチンに関して) 基本的に同一のワクチンを規定の回数、筋肉内に接種。接種間隔・回数はワクチンによって異なる。なお、4価ワクチンの対象である9歳以上の男性は定期接種対象外。

注9: HPVワクチン・9価に関して) 9歳以上15歳未満で接種を始めた女性は、初回接種から6～12ヵ月の間隔をおいた合計2回の接種とすることができる。
15歳以上で始めた場合は、3回接種。2回目は初回接種の2ヵ月後、3回目は「初回接種の」6ヵ月後に接種。前述のとおり接種できない場合は、2回目は初回接種から1ヵ月以上、3回目は2回目接種から3ヵ月以上の間隔をおいて接種する。

国立健康危機管理研究機構・日本の予防接種スケジュール(2025/08/20確認)



武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号